

# 「天のつぶ」は基肥窒素 0.8kg/a で割れ粃を低減できる

福島県農業総合センター 作物園芸部稲作科

## 1 部門名

水稻—水稻—施肥法、品質・食味

## 2 担当者

新妻和敏、佐久間祐樹

## 3 要旨

「天のつぶ」は、基肥窒素量を 0.8kg/a とすることで、m<sup>2</sup>当たり粃数が 3.5 万粒前後となり、品質、食味を維持しながら割れ粃の発生を低減することができる。

- (1) 基肥窒素量を 0.6kg/a から 0.8kg/a にすると、粃数が多くなり、精玄米重が増加する(表1)。
- (2) 基肥窒素量を 0.8kg/a とすると、割れ粃率が低下し、検査等級が向上する(表1、図1)。
- (3) 基肥窒素量が 0.8kg/a であっても、玄米タンパク質含有率、食味値に差はない(表2)。
- (4) 追肥時期が遅くなると玄米タンパク質含有率が高まり、食味値が低下するため、幼穂形成始期とする(表2)。
- (5) 基肥窒素量を 0.8kg/a としても、カメムシ類による斑点米は見られるので、適期に防除を行う必要がある。

表1 天のつぶの基肥窒素量と収量、品質、割れ粃など(センター本部)

基肥窒素量 (kg/a)	精玄米重 (kg/a)	粃数 (*100粒/m <sup>2</sup> )	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	検査等級 (1-10)		割れ粃率 (%)
					斑点米除		
0.6	68.5	321	93.4	23.0	6.1	2.0	12.2
0.8	75.9	357	92.9	23.0	3.6	2.1	8.3

※玄米は、1.8mm選別。水分15%調整。

※値は無追肥区、追肥区(-40日前、幼形期、減分期)の平均。

※検査等級は、JA郡山市農産物検査機関による10段階評価(1:上上、…、9:下下、10:規格外)。

斑点米除は、カメムシ類による斑点米を除外して検査した等級。

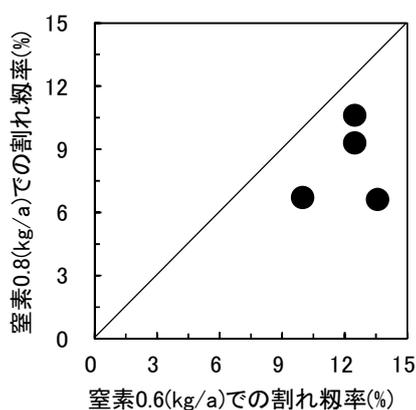


図1 基肥窒素量と割れ粃率

表2 天のつぶの施肥法と食味

施肥法 (kg/a)	玄米タンパク質含有率 (%)	食味値
0.6-0-0-0	5.9	80.5
0.6-0.2-0-0	6.0	79.5
0.6-0-0.2-0	6.0	79.5
0.6-0-0-0.2	6.2	77.0
0.8-0-0-0	6.0	79.0
0.8-0.2-0-0	6.0	79.5
0.8-0-0.2-0	6.1	78.0
0.8-0-0-0.2	6.0	78.0

※施肥法は窒素量で、基肥-出穂40日前-幼形期-減分期。

※玄米タンパク質、食味値は、近赤外分析計(サタケRCTA10A)による分析値。

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 26 年度
- (2) 研究課題名 県産米の高品質化・良食味米生産のための栽培管理技術の確立(水稻有望系統における生育診断技術の確立)
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

## 5 主な参考文献・資料